

# 岩間地区防災緑地ワークショップ かわら版 第3号



平成 25 年 7 月 28 日発行 / 福島県いわき建設事務所 / 〒970-8026 いわき市平字梅本 15 番地 / Tel : 0246-35-6075 / 担当 : 緑川、兵藤

## 第3回ワークショップを開催

岩間地区では、防災緑地の計画検討に際して、地域の方々の意見やアイデアを取り入れ、親しまれる防災緑地とするために、全4回の岩間地区防災緑地ワークショップを開催しています。

第1回から第2回までのワークショップでは、緑地で何をしたいか、何が必要かなど話し合いを経て、防災緑地のコンセプト案や活用イメージなどを話し合ってきました。

第3回ワークショップでは、これまでの意見を反映した基本計画図(案)を囲み、参加者13名でコンセプト・プランを整理しました。

### ワークショップのプログラム

- ◆第1回ワークショップ  
こんな緑地がいいね
- ◆第2回ワークショップ  
防災緑地のイメージを形にしよう
- ◆第3回ワークショップ  
コンセプト・プランを整理しよう
- ◆第4回ワークショップ  
防災緑地の利活用と管理を考えよう

## 図面を囲んで、検討を深める

### 伝承・交流・芸術をコンセプトとして

基本計画図(案)は3つのゾーンに概ね区分され、各ゾーンごとにコンセプトが設定されました。

津波被災伝承ゾーンは、津波の被災を後世に伝承するとともに犠牲者の慰霊の場とします。

地域交流ゾーンは、地域の人たちの日常的な利用や地域間の交流の場として利用でき、身近で愛着の感じられる緑地とします。

芸術公園ゾーンは、他地域の人たちや観光客にも立ち寄ってもらえるようなアート展示や音楽会などの芸術活動が展開できる緑地とし、地域の活性化を図ります。

これらのコンセプトと図面のゾーニング等をさらに検討して、コンセプトを確定し、基本プランの絞り込みを行いました。

会場の暑さも苦にせず議論が続きます。



これまでの各班の意見を反映した基本計画平面図(案)



# 討議の結果 テーマ：コンセプト・プランを整理しよう

3つのゾーン区分案は全参加者の賛同を得た一方で、否定的な声は聞かれませんでした。

各ゾーンにおいては、資料館等の建物や緑地内の駐車場が必要、四阿の増設、車椅子にも配慮した避難経路の勾配など、施設に関する意見が出ました。

また、地域交流ゾーンでは、墓地との一体的な整備を求める意見、ビューポイントである見晴台と芸術公園ゾーンの結びつきへの指摘、そもそも住民が少ない岩間地区における継続的な維持管理体制への配慮を求める意見なども聞かれました。

	意見	場所等	総括まとめ
A班	途中で終わらない計画にしてほしい。		①岩間地区には高齢者も多く、定住する住民が少ないことから、継続的な維持管理体制を念頭に置いた計画づくりが大切である。 ②地域交流ゾーンについては、墓地と一体的な整備が必要である。 ③資料館等を建設し、それとリンクした防災緑地にしてはどうか。 ④多目的広場から見晴台にかけては、岩間の海岸を眺める代表的なビューポイントである。
	維持管理を考えて欲しい（ゴミ等）。		
	人を呼び込む施設は作れないか。		
	震災後、能やウォーキング等の行事をしており、今年は地域の人たちが集まれるようにパーベキューを8月頃に予定している。		
	岩間の人々は高齢者等であり、維持管理は難しい。		
	モニュメント付近にしても除草などの維持管理は必要だと思う。	津波被災伝承ゾーン：モニュメント付近。	
	維持管理を考えながら計画しなければいけない。		
	子供たちが遠足で来られるような場所にしたい。		
	墓地と一体的な整備にしてはどうか。	地域交流ゾーン：墓地移転用地との一体的な整備。	
	地域の人々にとっては、集客によるゴミの問題などがある。		
国や県等の施設を誘致できないか。（継続的な維持管理のため）	当区域周辺		
指定管理者制度（シルバーセンター等）等での体制づくりが必要だ。			
新潟の事例のように資料館等を建設し、それらとリンクした防災緑地にしてはどうか。			
多目的広場については、三崎公園のようなイメージを持っていた。	多目的広場。		
岩間の海岸を代表するビューポイントである。	見晴台付近。		
見晴台からの景色を眺める地点は大切にしたい。	見晴台付近。		

	意見	場所等	総括まとめ
B班	指定管理者制度を取り入れられるようなグレードにしてほしい。防災緑地のグレードを上げることで、維持管理を行うNPO等のやりがいも増し、緑地周辺の再興・活性化への可能性も高まる。		①震災を後世に伝えるための建物を防災緑地内に建て、指定管理者制度により継続的な維持管理ができるようにしたい。 ②墓地と地域交流ゾーンとマッチさせ活用できるように、それらをつなぐ散策路がほしい。 ③小規模でも良いので駐車場が必要である。 ④地域交流ゾーンには四阿やベンチ等の施設がほしい。 ⑤階段護岸付近に平場があった方がよい。
	森の中に沈む建物ほしい。		
	防災緑地内に建物をつくるモデルケースにしてはどうか。		
	駐車場がほしい。	地域交流ゾーン。	
	交流できる施設がほしい。		
	バラバラになった住民のための地域交流の場として四阿やベンチ等の施設が必要ではないか。	地域交流ゾーン。	
	墓地と緑地をマッチングさせ、地域交流ゾーンとして活用してはどうか。墓地を含めた散策路があっても良いと思う（谷中墓地や青山霊園のようなイメージ）。	地域交流ゾーン。	
	障害者の方たちも利用しやすいように、県道を渡らずに利用できる駐車場が必要（数台ずつ置くような小規模なものを数ヶ所）。	津波被災伝承ゾーン。	
	大規模ではなく、小規模でも良いので駐車場が適所に必要である。	津波被災伝承ゾーン。	
	海をバックにモニュメントを見られるようにした方がよいのでは。		
震災を後世に伝えられる防災を含めた建物がほしい。			
観光客等を視野に入れた施設がほしい。			
階段に近い所に広場があった方がよいのではないか。	芸術公園ゾーン：階段護岸付近。		
防災緑地を最大限に利用できるために提案できる施設がほしい。			
多目的広場内の植栽はなくても良いのではないか。	芸術公園ゾーン：多目的広場。		

	意見	場所等	総括まとめ
C班	岩間地区は被災以前になかなか戻れない状況（住民の減少など）にあり、防災緑地の管理に岩間地区として係わることは難しい。このことを踏まえて維持管理については検討を。		①岩間地区で維持管理することは難しいので、今後さらに検討する必要がある。 ②人が集まるような計画をするのであれば、何らかの駐車スペースが必要である。 ③地域交流ゾーンは、多様な使い方ができるオープンスペースで良いが、防災緑地の入り口として街路樹等により魅力的なものにしてほしい。 ④津波被災伝承ゾーンには、防潮堤の残骸は出来る限り現況の形を活かし保存してほしい。 ⑤芸術公園ゾーンには、見晴台とゾーンの結びつきが大切である。避難経路の勾配を緩くし車椅子の方も上られるような形にしてほしい。 ⑥道路の法面の傾斜を見直し芸術公園ゾーンとの連続性を持たせるようにしてほしい。
	人が集まることを目指すのであれば防災緑地内に拘らないが、駐車場は必要ではないか。		
	トイレ、水場は交流の場として人が集まるのであれば、必要ではないか。		
	サーファーと岩間地区の住民との間がかつて軋轢があったので、人を集めるのであればその点を考慮してほしい。（サーファーの地元商店のトイレの借用など・・・）		
	他地区のワークショップの結果がわかれば、参考になるので、伝えて欲しい。		
	地域交流ゾーンは防災緑地のエントランスになるのでそれなりの検討をしたほうが良い。	地域交流ゾーン。	
	街路樹等による導入路。	地域交流ゾーン。	
	地域交流ゾーンはオープンスペースとしての活用が良いのではないか。	地域交流ゾーン。	
	モニュメント（タイムカプセル）と水平線が一体的に見えるように。	モニュメント付近（津波被災伝承ゾーン）。	
	防潮堤の残骸は現況の形を活かして	津波被災伝承ゾーン。	
芸術公園ゾーンから見晴台へのアプローチの検討が必要ではないか。	芸術公園ゾーン。		
法面の階段を（車椅子でも可能なように）ならかにする。	芸術公園ゾーン。		
法面の活用。展望場所としての小段の活用など。	芸術公園ゾーン。		
法面の植栽（芸術公園ゾーンの平坦地から法面の傾斜地は、景観としての連続性を）。	芸術公園ゾーン。		

## アドバイザーの感想

▶異なる管轄で情報共有し、連携する必要がある。地域交流ゾーンの墓地も、発電所との協力、墓地との協力が必要。小浜に向かう法面活用を再検討する必要がある。芸大が進めている文化庁プロジェクトとの連携も進めたい。（北郷先生）

▶改めて広い場所である事を認識した。地元の財産である。墓地との一体的な整備が必要。アートの仕掛けにより特別な場所になればと思う。計画地を通じて均一的な景観にならぬよう近景や身近な風景を大切にすべき。（元倉先生）

▶環境デザインはいかに場をつなぐかが重要。法面と広場、海とのつながりが滑らかにできる。広場は単なる林でなく利活用してほしい。道路側の駐車スペースに防潮堤の残骸を展示するのもいい。魅力的にすれば人は来る。（清水先生）

▶岩間地域のコミュニティの再生も大切。見晴台や道路から見る風景も岩間の新たな景観。地域の負担にならない維持管理、地域と行政の役割分担を考える必要がある。地域で守り育て、生活になじむ防災緑地にしてほしい。（木田先生）

